

第3回 学校評議員会議事録

日 時 平成 27 年 2 月 19 日（木）午後 3 時～午後 4 時

場 所 小会議室

参加者 学校評議員 穂坂路男氏（勝山診療所院長）
鈴木敦子氏（健康科学大学教授）
田邊守之氏（下吉田中学校長）

職 員 校長・第一教頭・第二教頭・事務長・広報情報正副主任

(1)校長挨拶

3 年生の進路決定状況、今年度の指導重点目標（生徒が主体的に考え、学ぶ授業、富士山学や理数科課題研究における調査、研究、発表）
酒折連歌賞における文部科学大臣賞受賞、科学の甲子園全国大会出場

(2)学校評価について

○生徒、保護者、職員による学校評価のまとめ（広報情報主任）
学習記録表の活用について改善傾向が見られる。部活動と勉強との両立を目指す生徒のうち、心と体のバランスを崩す生徒や睡眠不足の生徒がいる。日々の取り組みに追われてしまいがちだが、十年後・二十年後の目標を見いだせるキャリア教育の充実を目指す。

○学校評議員による学校評価のまとめ及び学校対応について（第二教頭）

1 「学習に対する主体性、学ぶ喜びに根ざした確かな学力の育成」について
評議員：職業に関して深められるようなキャリア教育の機会を増やす必要がある。

学校対応：平成 27 年度年間行事予定の抜本的な見直しと学校行事、総合的な学習の時間、LHR の内容の連動を図る。また、英語においては、小中高連携が計画されているので、これを活用していく。

2 「自らを律し、他者を思いやる心で、望ましい人間関係が築ける豊かな人間性の育成」について

評議員：生徒に課す課題量の検討や生徒のこころの発達への配慮が求め

られる。

学校対応：学年主任等による課題量の調整を実施した。また、教育相談体制において、さらなる充実を図る。スマホ教室を生徒だけでなく、保護者も交えて実施したが、今後も引き続き機を捉えて情報発信をする。

3「明るく豊かで活力ある生活を支えるたくましく、しなやかな心と体の育成」について

評議員：無理のない文武両道を進めて欲しい。適正な睡眠時間が確保できるような計らいをお願いしたい。

学校対応：保護者との連携で改善を図る。

4「高い使命感と健全な勤労意欲のもと、郷土、日本、世界に貢献できる人材の育成」について

評議員：生徒の郷土、日本、世界に対する意識が低い。

学校対応：教育活動全般において、生徒の意識を高められるような働きかけをする。

5 その他

評議員：さらなる情報発信を願う。

学校対応：今年度より学校ブログ、及び学校緊急ブログを立ち上げ、活用している。

(3) 懇談

学校評議員 学習時間とシラバスの活用との関連はあるか。

実際に学習計画の立案に役立っているか。

第二教頭 各学年とも年度当初にシラバスを配布し、生徒への学習の指針となるよう活用を進めている。

校長 生徒の中には、課題を頼りに学習を進めている者もいる。始めのうちはつらいと感じた課題も、時を経る中で、やりがいを感じる生徒も多い。

学校評議員 心と体のバランスを崩す生徒、不登校生徒、転退学について校内でのシステム・対応などはどうなっているか。

第二教頭 教育相談体制の整備を進めている。

学校評議員 生徒・保護者・教員のネットワークの充実が必要だ。

学校評議員 キャリア教育の充実について、大学でも不本意入学生徒が若干おり、オープンキャンパスに参加するだけでは不十分な生徒もいる。ボランティア活動などの体験学習は効果的だと思う。

学校評議員 山梨県の小中学生の家庭学習時間は全国平均を大幅に下回っており、高校入学以前の段階においても心と体のバランスを崩している生徒がいる。中学と高校の交流をより一層深めることが大事なので、これからも良い関係を構築したいと思う。吉田高校に対する地元の期待は大きい。どの教育現場でも課題は多くあるが、中高大の連携を深めていくことが重要。

学校評議員 小中学校の指導において、学力調査の実施の影響は大きい。

学校評議員 課題による効果には個人差があり、課題をこなす時間にも大きな差がある。個々への対応にも限界がある。

学校評議員 アルバイトは社会に触れる大きなチャンス。職場体験は効果が期待できるので、柔軟な対応を期待する。

学校評議員 教育ボランティアなどは教育系を目指す生徒でなくても効果的であり「教える」という体験は今後の学びにつながる。下級生は上級生のアドバイスをよく聞くものだ。

学校評議員 不登校、ひきこもりなどにおいて、先生方との窓口が学校によって異なる。もっと気軽に情報が共有できるようなネットワークが必要だ。